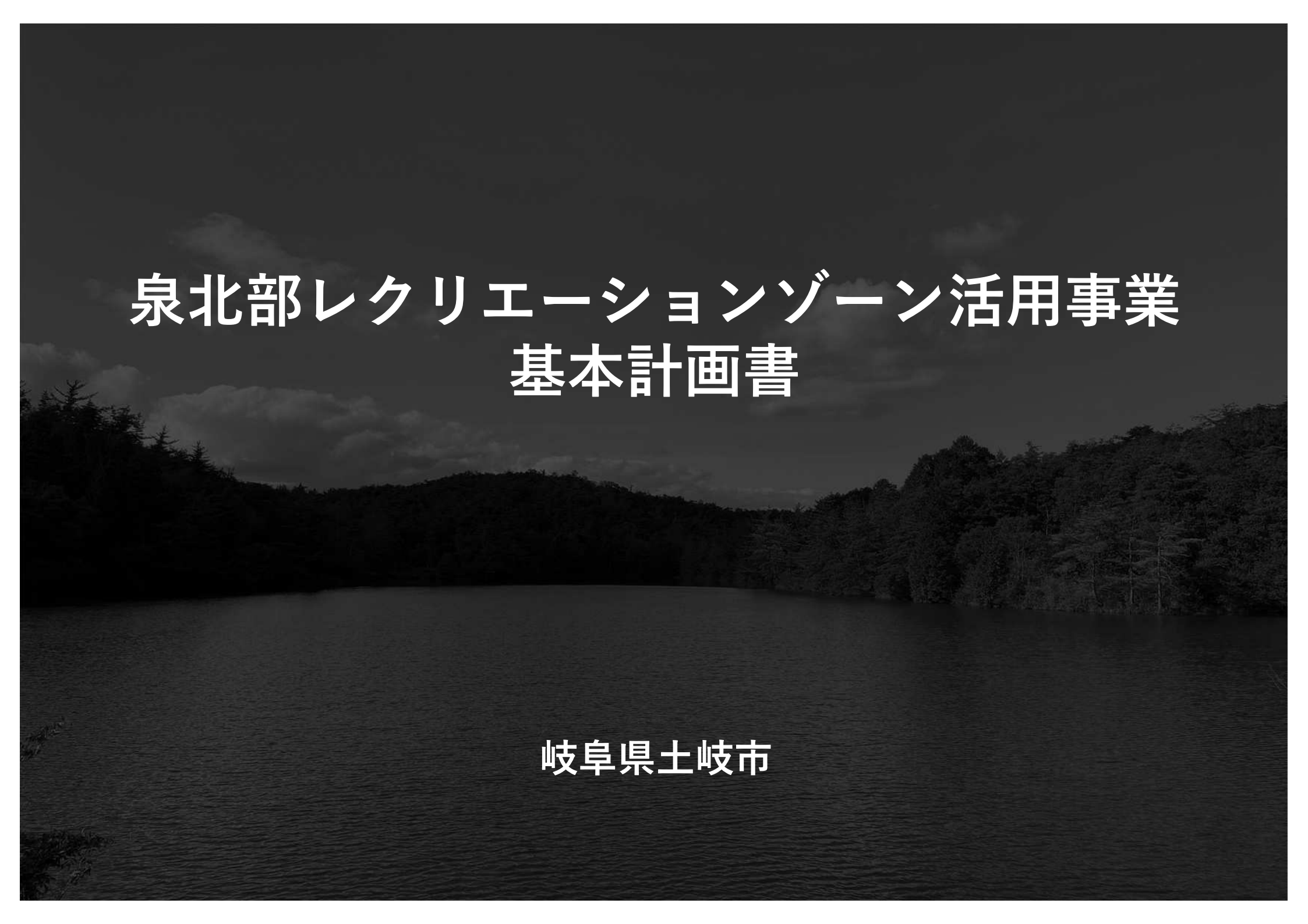




泉北部レクリエーションゾーン活用事業 基本計画書

岐阜県土岐市

はじめに

この計画書は、第六次土岐市総合計画で掲げる「人と自然と土が織りなす交流文化都市」の実現を目指し、土岐市都市計画マスタープラン及び各分野の計画と整合を図りながら、自然資源の魅力的な有効活用、新たな交流人口の発掘、美濃焼産業との連携による地域産業の活性化と創造、ワーケーションなど新たなライフスタイルへの対応、健康増進という市民ヒアリングなどから浮かび上がった5つの柱をもとに、泉北部レクリエーションゾーンを整備するために策定するものである。

また、次年度以降、土岐市民や土岐市に関わる皆さんが本事業に参画する際に必要な共通理解を醸成するため、本計画書には事業背景や本年度事業の一環として得た地元の方々の声、本市が実施した調査や検討プロセスも記載することとする。

この計画を基に、令和7年度中のオープンを目指し、設計・工事を進めていくとともに、オープン後に行っていくソフト事業について、より具体的に検討をしていく。

Contents

1.

計画策定の背景

- ・ 土岐市の地域課題の洗い出し
- ・ 泉北部レクリエーションゾーンの利活用の検討

2.

事業の方針の検討 ※資料編あり

- ・ 関係団体へのヒアリング
- ・ 市民ワークショップ

3.

泉北部レクリエーションゾーンの活用

- ・ 具体的なソフト事業の検討
- ・ モニタリングキャンプ
- ・ 5つの柱に基づく事業の検討

4.

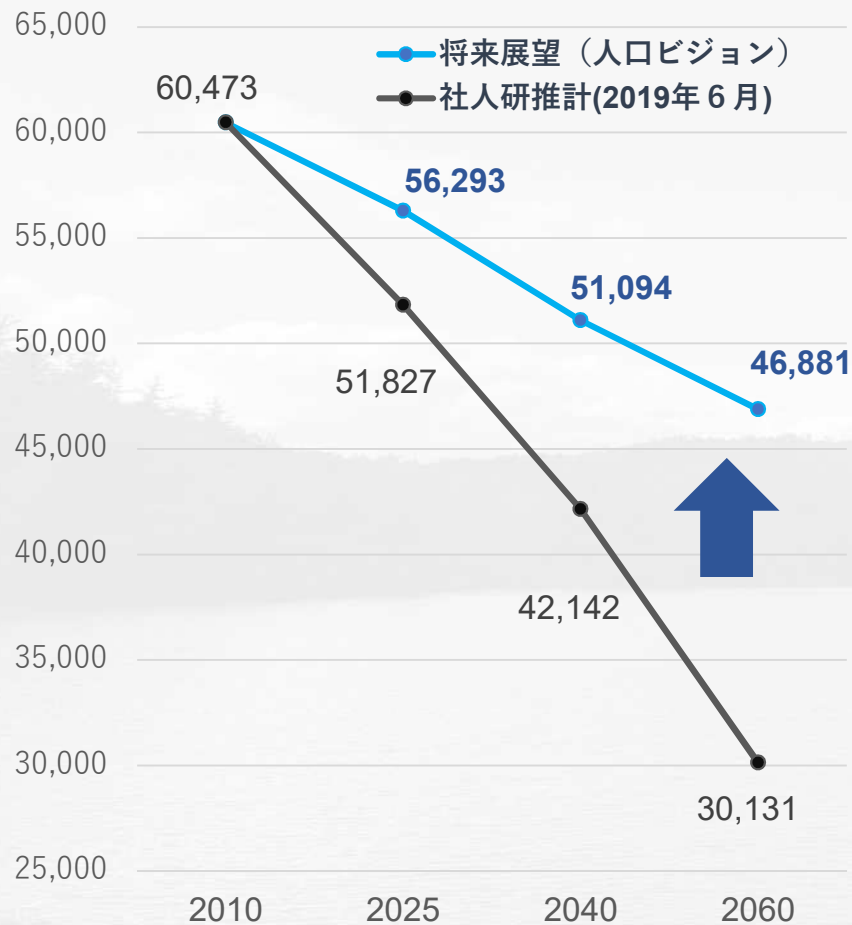
泉北部レクリエーションゾーンの整備

- ・ 機能の整理
- ・ エリアの整理・レイアウト案
- ・ 開業に係るスケジュールやスキーム

基本指標からみる土岐市の地域課題 | ①人口減少

人口は減少傾向にあるものの、定住指標や市政満足度指標の数値は増加傾向

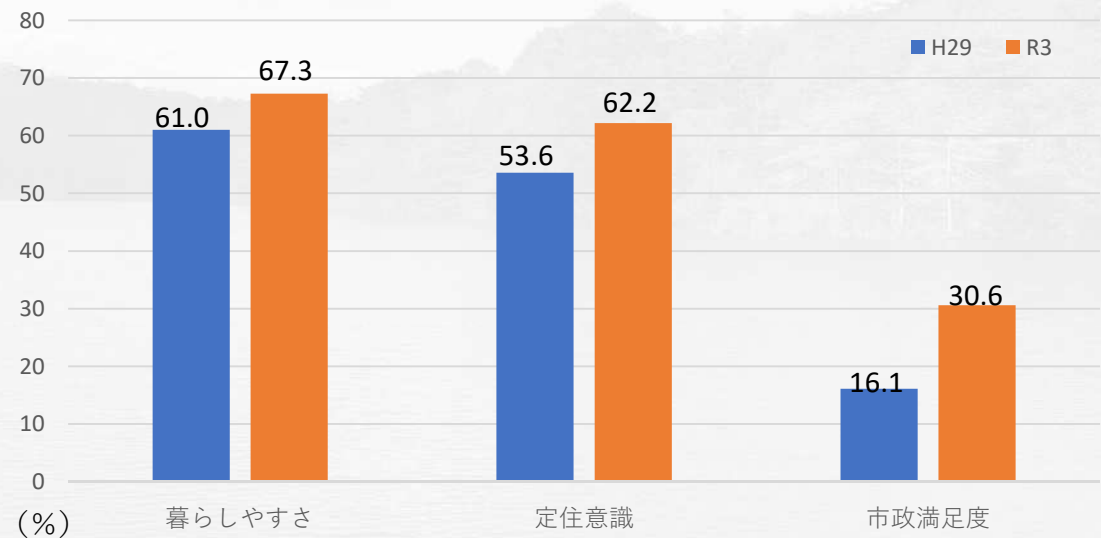
土岐市の人口トレンドと将来ビジョン



本市の人口は減少傾向にあり、2010年の総人口が60,473人に対し2025年は51,827人と、15年の間で約8,700人の減少となり、このままの流れで行くと、2040年には42,142人となることが推計されている。

一方で、土岐市に暮らしやすさを感じている市民は全体の67.3%と多く、今後も土岐市に住み続けたいと考える市民も62.2%となっている。

人口は減少傾向ではあるものの、今後も土岐市に住み続けたい、住みたいという意識をさらに醸成させることで、人口減少をゆるやかにさせる将来展望が期待できる。



基本指標からみる土岐市の地域課題 | ②観光入込客数の減少

観光入込客数は新型コロナウイルス感染症拡大前から減少傾向、
来訪目的は買物に集中

土岐市と岐阜県の観光入込客数の比較

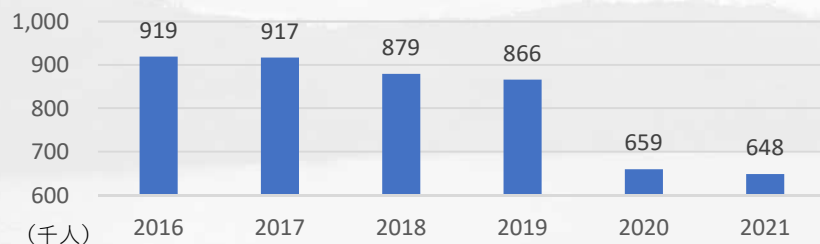
岐阜県全体の観光入込客数は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年以降は減少したものの、それ以前は年間で約7,000万人の横ばいで推移していた。

一方で、土岐市の観光入込客数は、岐阜県全体の流れとは関係関係がなく、豊かな自然環境や歴史的な産業がありながらも、2016年から減少が続いており、2020年以降は同感染症によって著しく減少している。

分類別に見る観光入込客数

観光入込客数を分類別に見ると、岐阜県全体では「道の駅」、「都市型観光」「スポーツ・レクリエーション」を目的とした観光客が多く、「自然」「歴史・文化」の割合は低いことが分かる。土岐市においても同様に、「自然」「歴史・文化」を目的とした観光客は少なく、「買物・食等」を目的とした来訪者が圧倒的に多い。土岐市の観光資源が幅広く認知されていないと読み取れる。

土岐市



岐阜県



土岐市分類別観光入込客数（2021）



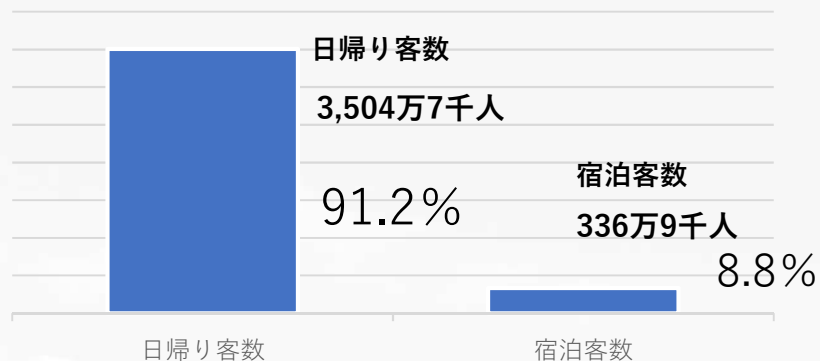
岐阜県分類別観光客入込数（2021）



基本指標からみる土岐市の地域課題 | ③観光による経済波及効果

土岐市内で宿泊をする観光客数が少なく、日帰り客数が99%を超える

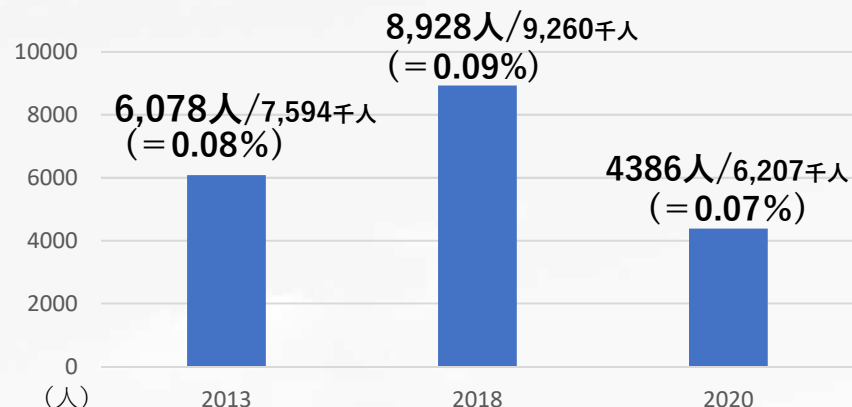
岐阜県全体の日帰り・宿泊別観光入込客数



令和3年岐阜県観光入込客統計調査より

岐阜県観光入込客統計調査によると、岐阜県を訪れる観光客のうち日帰りが91.2%、宿泊者は8.8%となっている。その傾向は本市でも同様であるが、その割合は岐阜県内のものよりも低く観光入込客の1%にも満たない数となる。また消費額は、日帰りの場合、1人あたり2,751円であるが、宿泊の場合は、22,473円と8.16倍となる。そのため、宿泊者数の割合を増加させることにより、経済波及効果の拡大が期待できる。

年間観光入込客の想定宿泊者数



土岐市観光振興計画「市内温泉宿泊施設（5施設）に宿泊した観光客数」を基に作成

市内温泉宿泊施設（5施設）に宿泊した客数をもとに、市内の宿泊施設13施設の**想定宿泊者数**を算出。

$$\text{想定宿泊者数} = 1\text{施設当たりの平均宿泊者数 (A)} \times 13\text{施設数}$$

(市内宿泊施設総数)

$$\begin{aligned} \text{内訳: } 1\text{施設当たりの平均宿泊者数 (A)} \\ = 5\text{施設の宿泊客 (人数)} \div 5 \text{ (施設数)} \end{aligned}$$

岐阜県観光消費額

	日帰り	宿泊	計
単位: 円			
令和2年	95,094,157,579	83,356,411,985	178,450,569,564
令和3年	96,427,003,917	75,714,459,936	172,141,463,853
対前年比	1.4%	△9.2%	△3.5%

1人あたりの消費額

	日帰り	宿泊	計
単位: 円			
令和2年	3,073	23,394	26,467
令和3年	2,751	22,473	25,224
対前年比	△10.5%	△3.9%	△4.7%

令和3年岐阜県観光入込客統計調査表-⑧ 圏域別観光消費額から作成

基本指標からみる土岐市の地域課題（まとめ）

地域課題	内容	想定される対策
①人口減少	人口は減少傾向にあるものの、定住指標や市政満足度指標の数値は増加傾向。	定住指標や市政満足度指標を引き続き向上させる施策を行い、社会増減による人口減少を最小限に抑える。
②観光入込客数の減少	観光入込客数は新型コロナウイルス感染症が影響する前から減少傾向、来訪目的は買物に集中。	買物や食べ物以外の魅力を地域外に発信し、交流人口の拡大を目指す。
③観光による経済波及効果	市内で宿泊をする観光客数が少なく、日帰り客数が99%を超える。	宿泊客が増えるような魅力の発信と観光施策の拡大。

Contents

1.

計画策定の背景

- ・土岐市の地域課題の洗い出し
- ・泉北部レクリエーションゾーンの利活用の検討

2.

事業の方針の検討 ※資料編あり

- ・関係団体へのヒアリング
- ・市民ワークショップ

3.

泉北部レクリエーションゾーンの活用

- ・具体的なソフト事業の検討
- ・モニタリングキャンプ
- ・5つの柱に基づく事業の検討

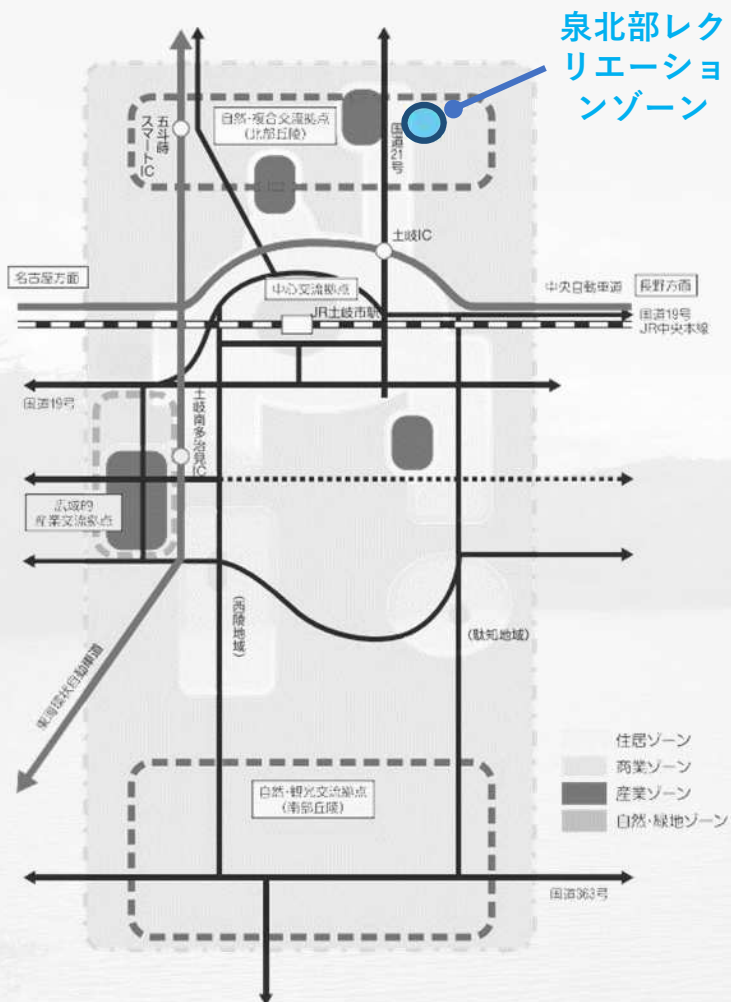
4.

泉北部レクリエーションゾーンの整備

- ・機能の整理
- ・エリアの整理・レイアウト案
- ・開業に係るスケジュールやスキーム

地域課題への対策として、 「泉北部レクリエーションゾーン」の利活用を検討

総合計画上の土地利用構想図



地域
課題

×

第六次
土岐市
総合計画

×

土岐市
都市計画
マスター
プラン

地域課題への対策として、第六次土岐市総合計画や土岐市都市計画マスタープランの中でも利活用を検討している「泉北部レクリエーションゾーン」を候補地として検討

第六次土岐市総合計画

第II編基本構想 第2章 めざすまちづくりの方向性 (P28)

●自然・複合交流拠点（北部丘陵）

北部丘陵においては、豊かな自然環境の保全を基調としつつ、現在、美濃焼卸商業団地や工業団地、道の駅志野・織部、美濃陶芸村、土岐市総合活動センター等があり、今後も商工・観光・スポーツ・レクリエーション等、バランスの取れた土地利用を図ります。

土岐市都市計画マスタープラン

第3章都市整備の方針 3-1(4)自然保全・活用型交流拠点の形成 (P22)

●レクリエーション施設の整備

スポーツ機能の中核的施設である土岐市総合活動センター周辺において、自然環境に溶け込んだレクリエーション施設の開発を検討し、機能の強化を図ります。

泉北部レクリエーションゾーン

良好なアクセスに加え自然豊かなエリア

周囲を緑に囲まれた自然豊かな泉北部レクリエーションゾーン。
1975年、同ゾーン内には岐阜県により若人の丘の施設として、「土岐少年自然の家」が設立され、東濃各地の小学生や各種団体等の合宿、ボーイスカウトのキャンプに利用されるなど、多くの市民に愛された。今もなお当時の利用者らは同施設での活動を鮮明に思い出し、語り合える程思い出の深い場所であった。

しかし、施設の老朽化などの問題から2010年に廃止され、その跡地は市営キャンプ場として利用されたが、2013年に廃止。

現在は、空き地となり、地域住民の散策エリアとして利用されている。



園戸池



候補地での散策風景



シンボルツリーのハナノキ



画像引用元 右上・下：Google Earth

泉北部レクリエーションゾーンの利用形態変遷

少年自然の家から市営キャンプ場を経て、現在は本市所有の遊休地



1975年～

少年自然の家

学校教育制度発足100周年記念事業として、健全な少年育成を目的に岐阜県が整備

東濃各地の小学校や中学校、各種団体等の合宿などに利用された

キャンプ場

利用者数の減少や施設の老朽化により研修棟、キャンプ場など5つの施設を廃止、県から市に移管



2013年～

市有地（山林）

利用者の減少等の理由から残されたキャンプ場も廃止

現在は、少数の市民がウォーキングコースとして利用するのみ



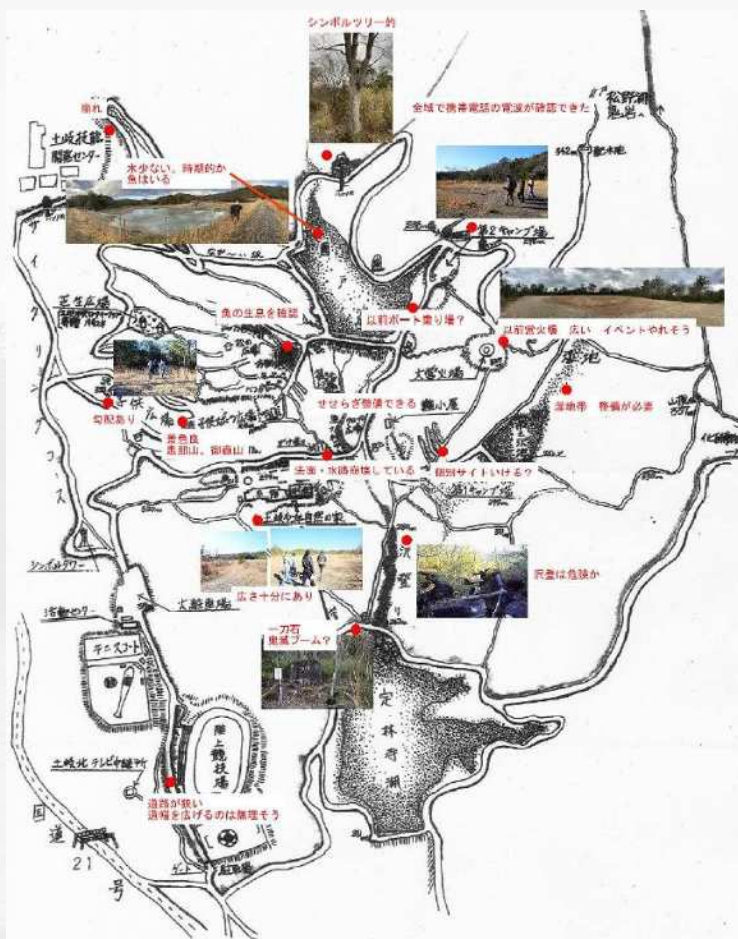
岐阜県

土岐市

土岐市役所の自主研究グループMIREC TOKIの検討 (1/2)

良好なアクセスとは対照的に喧噪を離れた静寂が特徴

MIREC TOKI中間報告書 抜粋



長所：静寂

当該地は、周囲を緑に囲まれた自然豊かな場所で、小鳥のさえずりや木々が風に揺れる音などを楽しむことができる静けさに満ちた場所です。実際に騒音レベルを測定した結果を以下に示します。

当該地は、国道21号線の東側約500mに位置（旧自然の家跡地）していますが、高低差のある土地の形状のおかげなのか、通行する車両の騒音は届かず静寂を保っています。静かな環境を求めるキャンパーには適した土地であるといえます。

○騒音測定結果 (LAeq)

	昼間 (15～16時)	夜間 (19～21時)	深夜 (21～23時)
旧自然の家跡地	31.5dB	29.4dB	26.9dB
住宅街 (肥田浅野朝日町)	47.5dB	—	34.6dB
当該地付近の国道21号 に接する土地	67.9dB	—	—

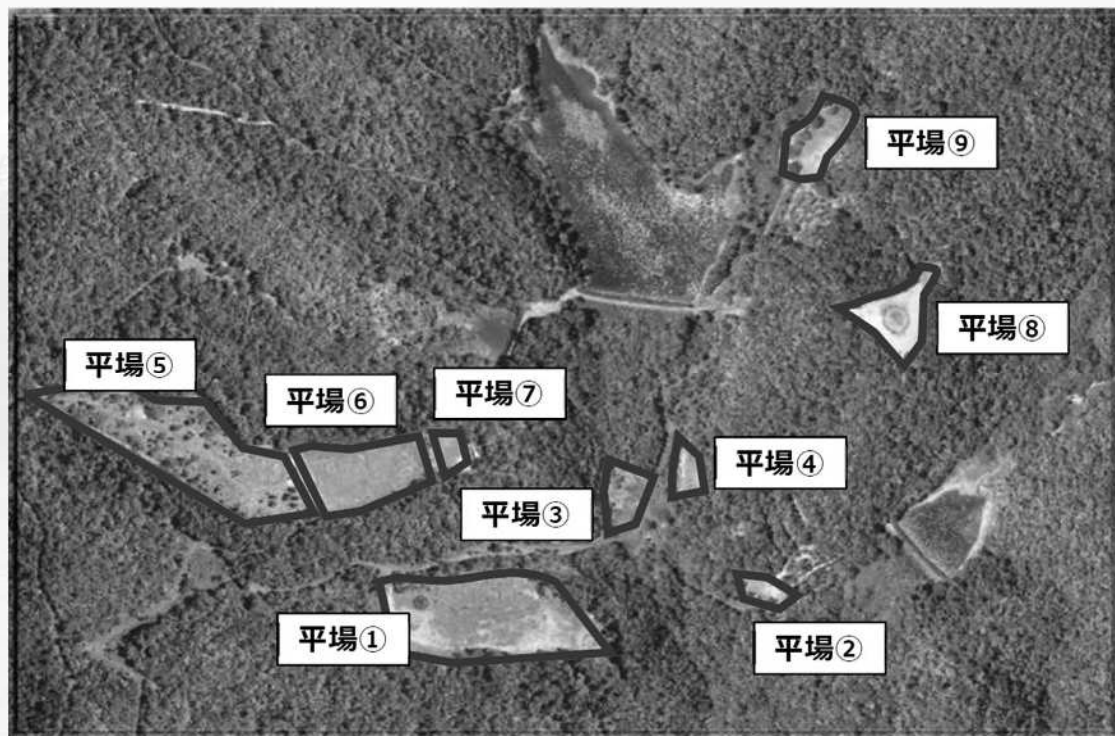
※騒音の目安… 20dB：木の葉のふれ合う音 30dB：深夜の郊外
40dB：図書館内 50dB：静かな事務所 60dB：デパート店内

土岐市役所の自主研究グループMIREC TOKIの検討 (2/2)

当該エリアの整備対象となる 9つの平場がリストアップされた

MIREC TOKI中間報告書 抜粋

当該地域は、以前土岐少年自然の家が設置されていたこともあり、今後キャンプ場を設置するうえで有効な、適度な広さを持つ平場がすでに存在しています。



平場	旧平場名 (自然の家存在時)	面積 (およそ・㎡)
①	自然の家宿泊棟等敷地	14,000
②	第1キャンプ場	800
③	クローバー広場	1,500
④	—	700
⑤	子供広場	10,000
⑥	子供スポーツ広場	5,000
⑦	展望台跡地	1,000
⑧	営火場	2,300
⑨	第2キャンプ場	2,300
合計		37,600

泉北部レクリエーションゾーンを整備する際の重要な考え方 金太郎飴的な打ち手ではなく、土岐市固有の課題からのボトムアップ

地域の多種多様な
ステークホルダー
の声を聴くこと

他の地域で成功モデルとされている
キャンプ場などをただ整備するのでは
なく、土岐市固有の課題と向き合い、
それらを解決するための事業・拠点整
備を実施していくことが必要。

マーケット
イン型
拠点整備

プロダクト
アウト型
拠点整備

Contents

1.

計画策定の背景

- ・土岐市の地域課題の洗い出し
- ・泉北部レクリエーションゾーンの利活用の検討

2.

事業の方針の検討 ※資料編あり

- ・関係団体へのヒアリング
- ・市民ワークショップ

3.

泉北部レクリエーションゾーンの活用

- ・具体的なソフト事業の検討
- ・モニタリングキャンプ
- ・5つの柱に基づく事業の検討

4.

泉北部レクリエーションゾーンの整備

- ・機能の整理
- ・エリアの整理・レイアウト案
- ・開業に係るスケジュールやスキーム

関係団体ヒアリングから見えてきたキーワード

美濃焼・観光・まちづくり・学生・飲食関係団体などと個別に意見交換

ステークホルダー		ヒアリングから見えてきたキーワード	
美濃焼	土岐美濃焼卸センター		窯で焼く体験 / 長期滞在 / 複数回訪問 / 産業観光 / アトリエ / 野焼き
	泉陶磁器工業協同組合		自然資源への配慮 / キャンプ場需要 / キノコ山 / 地域のお祭り / 組合青年部
	美濃焼おかみ塾		陶育 / 釉薬試験 / 来訪ポイント / 工程別分業 / ガバ鑄込み / EC直配送 / 定林寺湖
観光	土岐市観光協会		東美濃 / 交流人口 / イベント効果の一過性 / 市街地への送客機能
	土岐市観光ガイドの会		キャンプ場整備の意義 / 自然薯 / 地元の植生・花 / 定林寺の歴史
まちづくり	土岐青年会議所		直行直帰とならない交流人口 / おもてなし外会議 / 地元民の利用 / 地元事業者
	土岐商工会議所		市内周遊 / 屋外会議スペース / 野外フェス / クラフトキャンプ
	YOITOKI		収益化・高付加価値化 / 高校生世代の帰属意識 / 平日稼働 / 土岐にはこれがある
	NPO法人ひととき		過程の発信 / キャンパーに限らない集い場 / 野外イベント会場 / 宿泊施設
	NPO法人Mama's Cafe		キャンプニーズなし / 子どもと一緒に体験できる環境 / 写真撮影 / 子どもの貧困
	土岐商業高校		美濃焼が当たり前 / 人が集まるプラットフォーム / ARを通じた地域貢献
	土岐市飲食店組合		自然薯パウチ / 子どもにとって思い出の地 / 敷居の低さ / 火の親和性 / 食材セット

Contents

1.

計画策定の背景

- ・土岐市の地域課題の洗い出し
- ・泉北部レクリエーションゾーンの利活用の検討

2.

事業の方針の検討 ※資料編あり

- ・関係団体へのヒアリング
- ・市民ワークショップ

3.

泉北部レクリエーションゾーンの活用

- ・具体的なソフト事業の検討
- ・モニタリングキャンプ
- ・5つの柱に基づく事業の検討

4.

泉北部レクリエーションゾーンの整備

- ・機能の整理
- ・エリアの整理・レイアウト案
- ・開業に係るスケジュールやスキーム

市民ワークショップ

日時 2022年11月27日（日）14：00～17：00

場所 土岐市役所1階多目的ホール

参加者数 23名

目的 泉北部レクリエーションゾーンを活用した先に広がる土岐市の未来について対話を行い、今後のありたい姿へ向けた施策検討に生かす。

内容 A、B、C、D、E、Fの6チームに分かれ、「未来へむけたアイデア」を創出し、プレゼンテーションを行った。

テーマ①

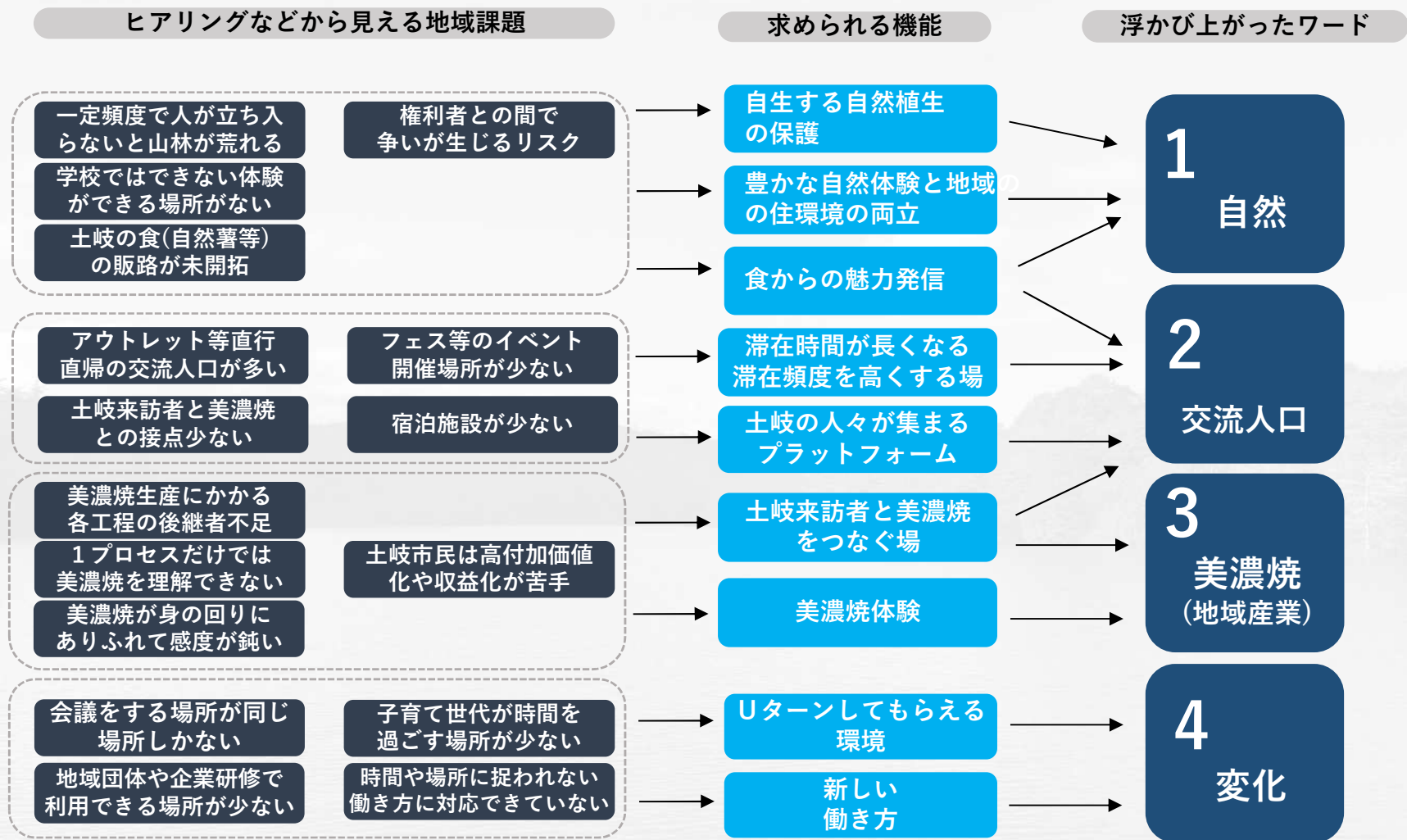
- ✓ 泉北部レクリエーションゾーンで起こしたいこと、やりたいこと
- ✓ 泉北部レクリエーションゾーンによって起きる可能性のある問題を解決すること

テーマ②

- ✓ どんな泉北部レクリエーションゾーンができた？
- ✓ 泉北部レクリエーションゾーンによって、どんな土岐市になったのか？

【まとめ】関係団体ヒアリング・市民ワークショップから見えてきた地域課題とその相関関係

4つのワードが浮かび上がった



Contents

1.

計画策定の背景

- ・土岐市の地域課題の洗い出し
- ・泉北部レクリエーションゾーンの利活用の検討

2.

事業の方針の検討 ※資料編あり

- ・関係団体へのヒアリング
- ・市民ワークショップ

3.

泉北部レクリエーションゾーンの活用

- ・具体的なソフト事業の検討
- ・モニタリングキャンプ
- ・5つの柱に基づく事業の検討

4.

泉北部レクリエーションゾーンの整備

- ・機能の整理
- ・エリアの整理・レイアウト案
- ・開業に係るスケジュールやスキーム

具体的なソフト事業の検討

調査で浮かび上がったワードから以下の視点を主に事業案を検討

美濃
焼

美濃焼を自ら作り上げる
体験価値創造の場の創出

交流
人口

人々が集まるプラットフォームの創出
食を通じた魅力発信

自然

豊かな自然体験と
地域の住環境の両立

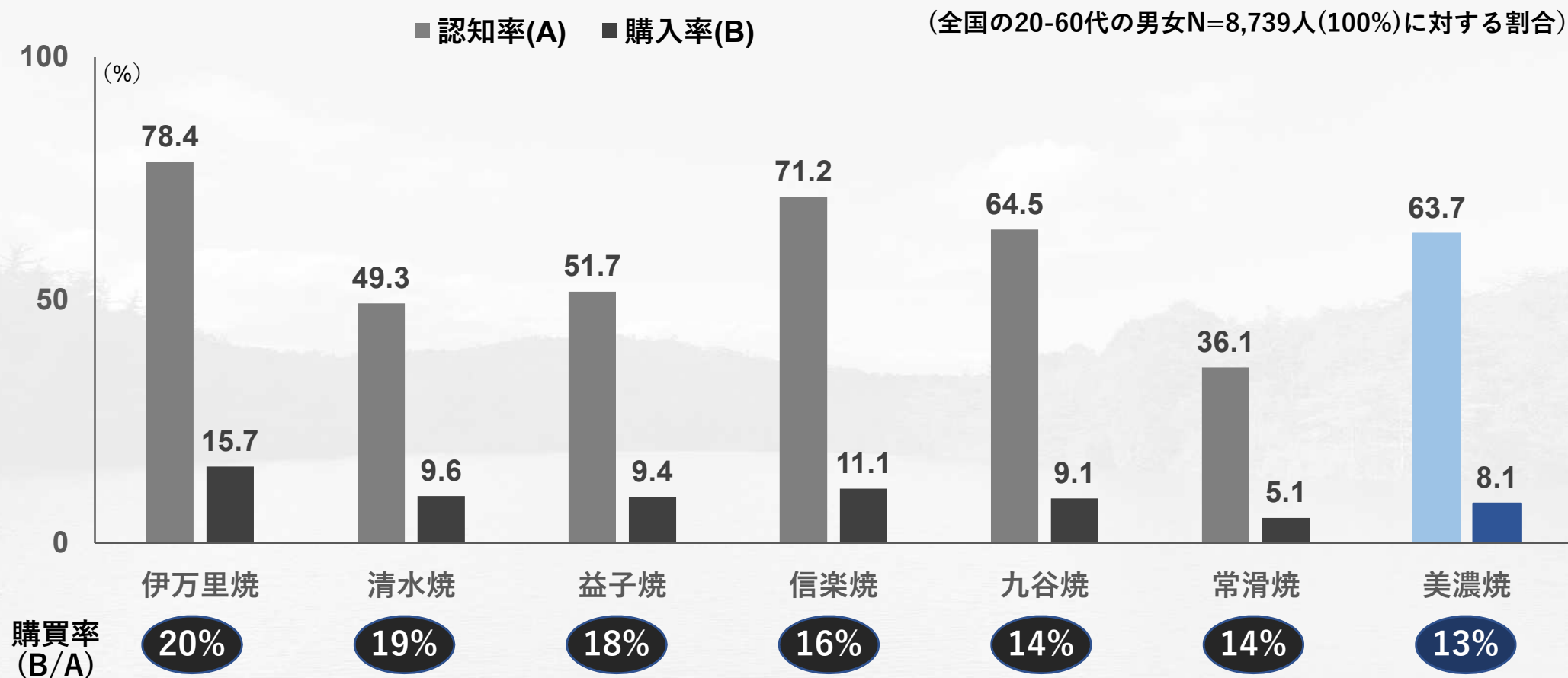
変化

時代の変化・ニーズに
対応する環境の創出

美濃焼の課題として浮き上がる“購買率”

知名度向上ではなく、購入に至るまでの橋渡し(ファン化)が重要

主要な陶磁器の認知率と購入率の比較



※ 購入＝物を買入れる事
購買＝物を販売するためのシステム全体

美濃焼体験としての「野焼き」の検討

スケールが大きく、参加者にとってはインパクトのある原体験

野焼きのコンテンツ化に対する賛同コメント



- 野焼きは美濃焼への導入アイテムとしては良いと思う。
 - － 美濃焼を軸に「土のストーリー」「土の地域性」をコンセプトとして欲しい。釉薬の試験場もあるので、野焼きに最適化した材料もつくれるのではないかな。



協同組合土岐
美濃焼卸センター

- 野焼き窯はキャンプとも相性が良い。野焼きを見ながら夜を過ごすというのも素敵な夜の過ごし方。
 - － 野焼きを、美濃焼への理解を深めていくきっかけにもらえれば。



泉陶磁器工業協同組合

- キャンプファイヤーを囲むような形になるので、美濃焼体験コンテンツとして「野焼き」は最適。
 - － 設えもシンプルで、ある程度乾いた粃殻があれば良い。焼き締めたいなら扇風機を使う。



土岐市
飲食店組合

- 野焼きを体験コンテンツとする案は、火との親和性があるって非常に良いと思う。
 - － 普段見ることのない火を見る非日常感。火が生きているように見える。



- 焼き物は土なのでキャンプとの親和性は間違いなく高い。キャンプ場で野焼きというアイデアに賛成。
 - － 美濃焼の認知度を高めていくことが必要。外向けにどう打ち出していくか。

イメージ



▲野焼きの火はキャンプファイヤーさながらの圧巻で非日常感あふれる（写真は土岐青年会議所主催時のもの）



▲粃殻を敷き詰めて野焼き窯をこしらえる（写真は妻木陶磁器工業協同組合主催時のもの）

「七輪や焚火台を使った美濃焼体験」の検討

野焼きより手軽に美濃焼の焼成を体験できるポテンシャル

追加ヒアリング & 検討結果

協力：泉陶磁器工業協同組合



焚火を囲む感覚で、美濃焼の焼き上げを体験できる。



短時間（30分～1時間程度）で焼き物の醍醐味である焼き上げを体感できる。



素材を提供できる窯元、および拠点管理運営者の両者にとって負担が軽い。

<体験フロー>

素焼き製品用意

1人1つ焼成体験できる形を想定。
ぐい呑みなどが適切サイズ。

焚火感覚で焼成

1グループあたり1つの焚火台や七輪で30分～1時間程度焼き上げ。

冷却 & 炭化

水を入れたバケツで急冷または籾殻入りの缶で時間をかけて炭化。

未知なる領域のため、実証実験を通じてコンテンツ化の是非を検討する必要

新たなライフスタイルに対応した拠点利用の可能性

変化に対応した環境の創出

MIREC TOKIではワーケーションを1つの打ち手として想定

MIREC TOKI 報告書 (中間) 抜粋

- コロナ禍を契機に、企業が積極的に導入するようになった働き方のひとつに、ワーケーションがあります。感染症へのリスクも高い密室での勤務や、長い通勤時間を避けることに加え、従業員の精神的・肉体的なストレスが軽減され、業務効率やモチベーションの向上に寄与するものとして注目されています。
- 土岐市総合活動センター周辺地域の利活用については、豊かな自然資源を活かした自然レクリエーション施設、とりわけ、市内外の幅広い世代のニーズに対応した、また、新しい働き方であるワーケーションの推進を支援できるキャンプ場を新たに設置することが望ましいと考えます。



新たなライフスタイル×プラットフォームの役割

土岐の人々が集まるプラットフォーム

コワーキングスペースよりもアウトドア会議が有力候補となり得る



コワーキングスペース

1

個人利用（to C）としての想定単価は数百円～千円程度が限度であり、収益性の面で難がある

2

市民向けサービスの面では、時間や場所を問わず仕事ができる業種は圧倒的に少数

3

起業や事業を創出するサポート活動の場としない限り、プラットフォームの役割は果たしづらい

アウトドア会議



1

法人などグループ利用（to B）としての想定単価は数万円程度で設定可能であり、収益性を担保できる

2

土岐市では平日も含めて精力的に会議などで活動している団体が多く、潜在需要がある

3

市民の会議の場がオープンとなっていれば、自然と人が集まるプラットフォームの場となる

自然豊かな情操教育の場としての拠点利用

遊具設置の公園は既にある。むしろ地域の自然を体感する空間を重視

豊かな水辺を擁する原風景



▲ 定林寺湖（一刀石近辺から南方向を望む）



▲ 園戸池

（参考）近隣の遊び場



▲ 土岐市総合公園



▲ 陶史の森

地元の自然環境への配慮の必要性

地域固有の植生を新たな拠点においても尊重していくことが重要

- ◆ シデコブシ、ハナノキ、ヒトツバタゴ（ナンジャモンジャ）は東海地方の丘陵・台地の湧水湿地や痩せた土地に自生する東海地方固有の植物で、“東海丘陵要素植物”と呼ばれる。
- ◆ 特にヒトツバタゴは土岐市の木である。



シデコブシ



ハナノキ



ヒトツバタゴ

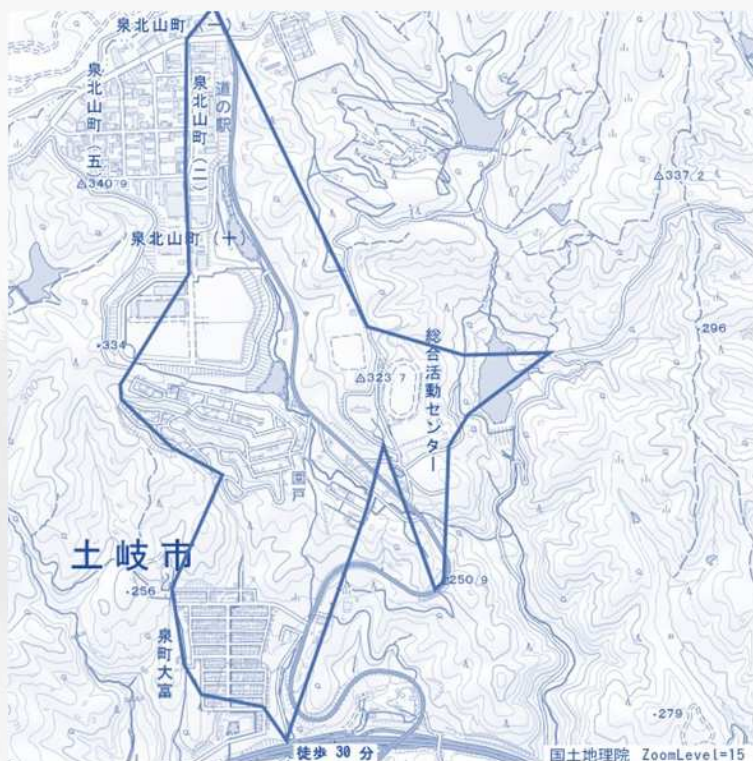
66 土岐市観光ガイドの会

- 土岐市らしさを体現し、かつ人を呼び込むうえで、拠点候補地およびその近辺の東海丘陵要素植物の「花」は重要と考えている。特に定林寺地区近辺はヒトツバタゴが自生する珍しい地域となっている。

地元住民の生活環境への配慮の必要性

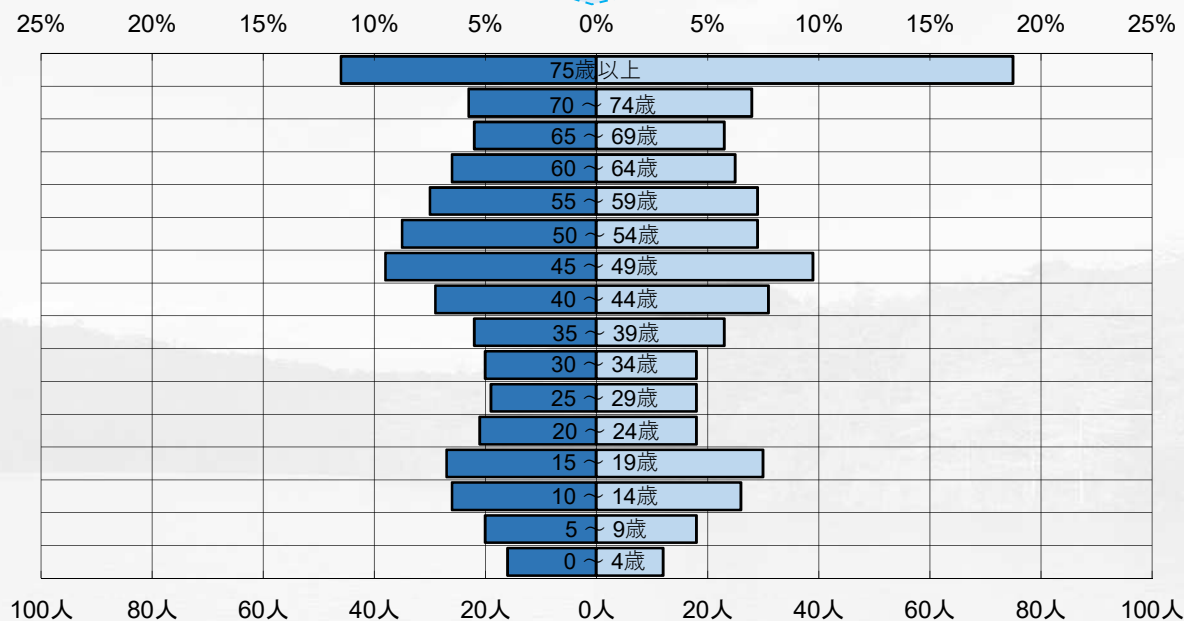
当該エリア近隣は高齢者も多く、住環境が毀損されることを懸念

拠点候補地から徒歩30分圏内の人口構成



■ 男性 ■ 女性

年齢別人口構成比



定林寺湖一帯は、この地域で育った人たちにとっては思い出の地であり、開発されることへの不安や懸念がある ー地元ヒアリングより

土岐市 地区別人口調べを基に作成

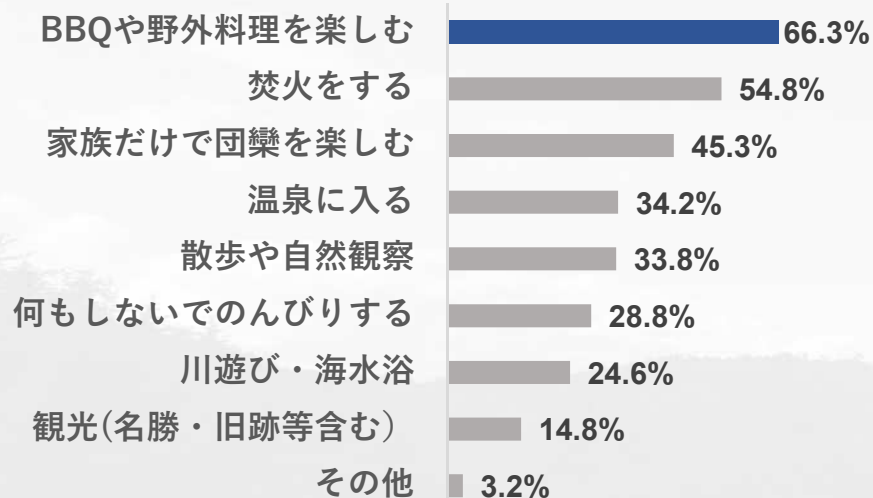
実証実験では、地元住民の協力を得ながら、自然の体感と地域の環境の両立の形を模索する必要がある。

土岐の新拠点で提供できる“食”

土岐に根付くBBQと自然薯が検討の第一候補

アウトドアとしてのBBQ×市民性

【キャンプ場での（好きな）過ごし方】



地元ヒアリングの声（抜粋）

- ◆ 土岐の人たちはBBQが大好き。近場の人にも利用してもらうためには、手ぶらでできるBBQなどのコンテンツがあると良い。
- ◆ 手軽にBBQを体験してみたい。手ぶらで来ても良いというような。地産地消ができると良いのでは。

土岐市観光協会が推進する自然薯

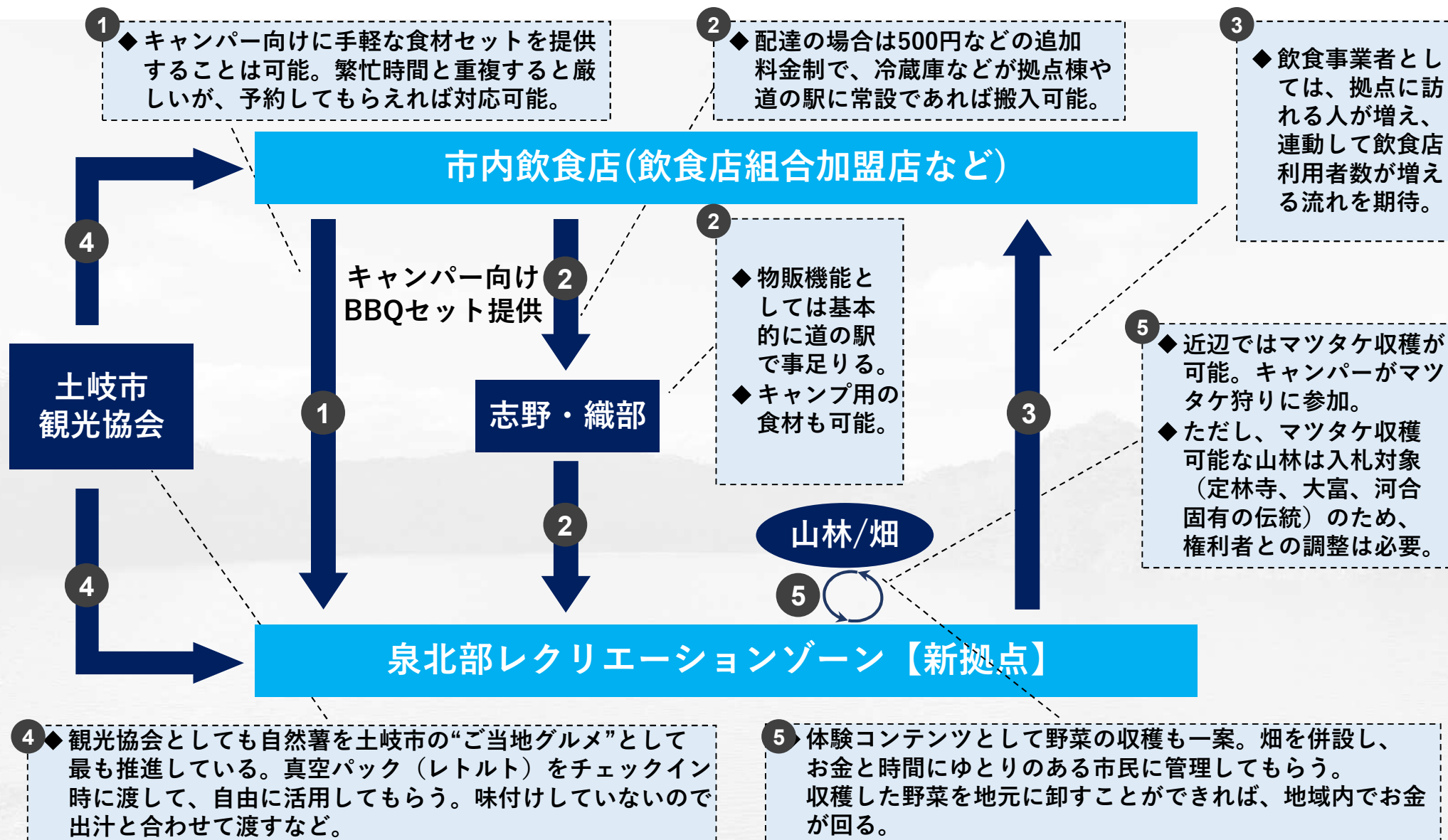


地元ヒアリングの声（抜粋）

- ◆ 土岐市では、正月の2日に自然薯をすりおろした「とろろご飯」を食べる習慣がある。これは、自然薯に消化酵素がたくさん含まれていることから、ご馳走を食べたお腹を休める意味を込めている。
- ◆ 観光協会としても自然薯を土岐市の“ご当地グルメ”として最も推進しているところ。

地元飲食店との連携イメージ（初期）

飲食店組合との連携による食の提供に係る土岐らしさを創出



Contents

1.

計画策定の背景

- ・土岐市の地域課題の洗い出し
- ・泉北部レクリエーションゾーンの利活用の検討

2.

事業の方針の検討 ※資料編あり

- ・関係団体へのヒアリング
- ・市民ワークショップ

3.

泉北部レクリエーションゾーンの活用

- ・具体的なソフト事業の検討
- ・モニタリングキャンプ
- ・5つの柱に基づく事業の検討

4.

泉北部レクリエーションゾーンの整備

- ・機能の整理
- ・エリアの整理・レイアウト案
- ・開業に係るスケジュールやスキーム

モニタリングキャンプの開催概要

日時

- 2022年12月3日（土）10：00～19：00

場所

- 土岐少年自然の家跡地（泉北部レクリエーションゾーンの一部）

参加者

- 土岐市の住民等 約30名
※関係団体ヒアリングを実施した方々などを中心に声掛け

目的

- 具体的に検討した4事業について、実証実験を実施

内容

No.	イベントプログラム	4つのワードへの対応			
		自然資源	交流人口	美濃焼	変化
①	七輪と焚火を使った美濃焼体験		☆	★	
②	アウトドア会議 / ランチ 【美濃焼体験振り返りWS】		☆	★	★
③	定林寺湖散策 【自然資源発信と生活環境保全の両立】	★	☆		
④	地元の飲食店と連携した美濃焼BBQ	☆			

モニタリングキャンプに向けた仮説と検証内容の再整理

論点

仮説

検証

A 美濃焼を自ら作り上げる
体験価値を創造できる
コンテンツは何か

B アウトドア拠点と
親和性の高い
美濃焼体験は何か

C 土岐の人々が集まる
プラットフォームの
あり方はどのようなものか

D 生活環境の悪化を懸念する
地元の不安をどう解消するか

E 来訪者に定林寺エリア
一帯の自然資源をどう
堪能してもらうか

F 地元飲食店と連携し、
土岐らしさのある
アウトドア的食事は何か

G 新拠点は土岐市観光協会の
推進している「自然薯」の
販路となるか

- 美濃焼の敷居を高くしないことが新たな交流人口の発掘に必要で、手頃な美濃焼入門が良い。
- キャンプの通常アクティビティの中に溶け込む形で、両者に共通する「火」を主題に体験価値を付与すべきでは。

- 事業者や団体の会議等の日常活動をキャンプフィールドという屋外空間で実施してもらうのが良い。

- 地元住民と定林寺湖の魅力を一緒に体感し、エンゲージメントを深めていくことが重要。
- 自然資源を広域活用するか否かは、体験価値の度合いや、生活環境保全とのバランスを勘案。

- 土岐市民のBBQ文化を踏まえ、美濃焼・キャンプギアを活用し飲食店組合提供食材でのBBQが良いか。

- 自然薯を将来的にパウチで販路に乗せるため、とろろご飯やとろろダレで利用者に提供。

1 七輪 or 焚火台を
使った美濃焼体験

【素焼き&施釉済の
ぐい呑みを焼き上げ】

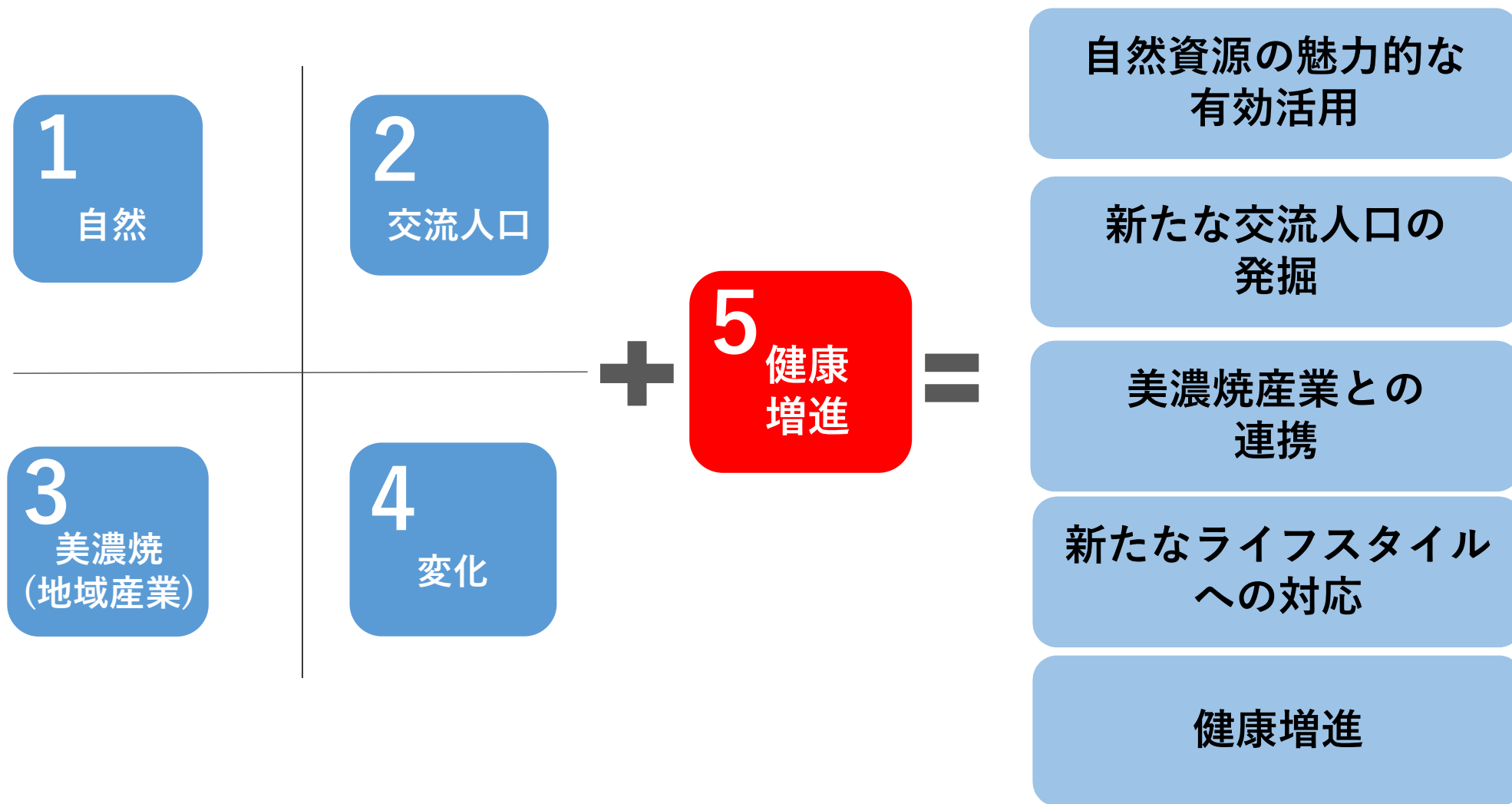
2 美濃焼体験の振り返り
を兼ねたアウトドア
ランチミーティング

3 地元住民との
定林寺湖への広域散策
(住民散策ルートや環境を保全
することの共通認識)

4 自然薯をアクセント
とする美濃焼BBQ
(とろろご飯、とろろダレ)

モニタリングキャンプを経て、4つのワードに「健康増進」を加え、5つの柱とする。

モニタリングキャンプを実施したことで、クアオルトなど健康増進に繋がるポテンシャルを改めて確認できたため、5つ目の柱を追加。



Contents

1.

計画策定の背景

- ・土岐市の地域課題の洗い出し
- ・泉北部レクリエーションゾーンの利活用の検討

2.

事業の方針の検討 ※資料編あり

- ・関係団体へのヒアリング
- ・市民ワークショップ

3.

泉北部レクリエーションゾーンの活用

- ・具体的なソフト事業の検討
- ・モニタリングキャンプ
- ・5つの柱に基づく事業の検討

4.

泉北部レクリエーションゾーンの整備

- ・機能の整理
- ・エリアの整理・レイアウト案
- ・開業に係るスケジュールやスキーム

5つの柱に紐づいた今後の事業検討：土岐市内外から人が集い交わる

自然環境を生かしたアウトドア会議・研修の促進



企業へ向けた研修の場としての提供



生活者に対する活用方法の検証



地域の方々を集めた焚火トークの実施

各地域でライフスタイルの変化に合わせた働く場の検討が求められる。今後はその環境を整えることを目指し、継続的に検証を繰り返し、自然資源を生かした会議や研修の可能性を検討していく必要があると考えられる。

課題

▲ 地域需要に対して利用できない環境に限りがある

▲ 新しい生活様式・働き方への対応不足

提案プロセス

アウトドア会議・研修導入の検証と活用促進

地域事業者への会議や研修による活用

地域で働く方々への場所の提供

市外事業者に対してのプラン提供

生活者としての利用方法の検証

地域の方々・仕事で土岐市を訪れる人に継続的に活用される拠点化

効果・目標

5本柱への対応：

自然資源

交流人口

美濃焼

ライフスタイル

健康増進

アウトドア会議・研修プランの活用イメージ

利用者や活用方法を変化させながら繰り返し検証を行い、必要な環境とニーズを確認しながら、内容を組み立てていく。

■1泊2日での利用例

DAY
1



DAY
2



■半日での利用例



■年間を通した利用例



5つの柱に紐づいた今後の事業検討：土岐の文化と自然をつなぐ

地元事業者と連携した地域ツーリズムの具体化と実践



地域の資源を知り体験する場の検討



地域に根差す伝統を学ぶ場を創出



地域産業を支える人々との交流

日帰り観光客が圧倒的に多い中、美濃焼を中心とした地域の産業・文化の発信方法の検討が求められる。一拠点にとどまらず地域全体での周遊滞在を促進し、地域資源の活用から魅力を発信し、整備による効果を地域で得られる体制を整える。

課題

▲一部プロセスだけでは美濃焼を理解できない

▲資源の高付加価値化や収益化がうまく行えていない

提案プロセス

地域ツーリズムの具体化と実践

地元事業者と連携した包括的な体験プランの計画

体験の組み合わせなどによる高付加価値化の検討

つくり手や地域の方々の想いを伝える提供方法の検討

実際にモニター参加者を募る形式での検証

美濃焼を中心とした地域産業の魅力を発信し、地域のファンを獲得

効果・目標

5本柱への対応：

自然資源

交流人口

美濃焼

ライフスタイル

健康増進

土岐市におけるツーリズムのプランイメージ

地域産業に携わる方々と連携し、土岐市を「知る」・「見る」・「感じる」という3つの体験を軸に美濃焼産業や土岐市に暮らす人のファンになるようなツーリズムを検討していく。

『美濃焼を知る・つくる・使うをテーマとした1泊2日のプラン』

キャンプ宿泊をしながら市内を周遊し、土岐市の自然・産業・食・人に触れ・体験するツアー構成を検討。

DAY
1



DAY
2



5つの柱に紐づいた今後の事業検討：地域内外での交流を促す

週末マルシェなど、目的となる地域イベントの企画・実施



地域の事業者同士の交流が生まれる場の創出



幅広い世代が自由に利用できる機能の検討



市民が定期的集える催しの実施

観光客と地域、生活者と地域事業者、また地域事業者同士など、新たな拠点の機能として地域内外の交流の機会を生み出していく検討が必要となる。定期的に交流を生み出すようなイベントを催し目的地を作りながら、交流人口の創出につなげていく。

課題

滞在時間を長くする、滞在頻度を高くする場の模索

地域の方が集まるプラットフォームの整備

提案プロセス

地域イベントの企画・実施

マルシェなど、定期的に目的地となる機会を生む

ママさん同士の交流の場・学生参加の場として活用

大人数が参加可能な場を用意し賑わいをつくる

地域事業者同士の交流の場を提供

地域生活の拠点として利用できる場、目的地となる機会の創出

効果・目標

5本柱への対応：

自然
資源

交流
人口

美濃焼

ライフ
スタイル

健康
増進

5つの柱に紐づいた今後の事業検討：地域の自然を活用し残していく

日常的な自然体験提供と実践的な環境保全の促進



地域特有の植生や自然環境を学ぶ場の創出



地域一体となった自然保護活動の実施



幼少期における自然教育の実践

課題

▲ 一定頻度で立ち入らないと山林が荒れる

▲ 学校で得られない体験が行える場が少ない

提案プロセス

自然体験活動と環境保全活動の促進

気軽に自然に触れる体験の企画と提供

希少種など植生教わりながら地域への愛着を醸成

散策路整備や植生改善などのワークショップを実施

整備参加など実践的な環境学習へとつなげる

定期的な活用から環境を整備し、愛され受け継がれる地域を創出

効果・目標

5本柱への対応：

自然
資源

交流
人口

美濃焼

ライフ
スタイル

健康
増進

5つの柱に紐づいた今後の事業検討

先述以外でも次のような事業案を今後検討し、事業発展の可能性を探っていく。

5つの柱	今後の事業案
1 自然資源の 魅力的な 有効活用	自然観察会、星空観察会 バードウォッチング、里山体験、natureクラブ など
2 新たな 交流人口 の発掘	マルシェの開催、イベントの誘致 など
3 美濃焼産業 との連携 (地域産業)	オープンファクトリー、オリベヒルズ探索 など
4 新たな ライフスタイル への対応	アウトドア会議、アウトドア研修会の開催 など
5 健康増進	健康ウォーキング、ヨガ教室、森林活動、散策クラブ など

今後の事業検討

5つの柱の実現に向けた事業の位置づけと段階の整理

ハード整備の検討と並行しながら、レクリエーションゾーンを中心として行っていくソフト事業の検討と整備を実施し、5つの柱の実現に向けてハード・ソフト両面からの実行プランを組み立て実行していくことが求められる。

STEP

1

5つの柱に紐づいたソフト事業の継続的な検討・実施

- ・ 5つの柱の実現に向けたソフト事業内容の検討、検討体制の整備
- ・ 事業実現に向けたスキーム検討・運営主体の設定
- ・ 運営主体を迎えながらの具体的な事業プラン作成とモニター調査を実施しながらの検証

STEP

2

5つの柱に紐づいたハード整備実施

- ・ 5つの柱の実現に向けたソフト事業に対応するハード整備要件の整理
- ・ 整備要件に対応した基本計画策定と具現化に向けた設計検討
- ・ レクリエーションゾーンの整備実施

STEP

3

レクリエーションゾーン全体での5つの柱の実現

- ・ 施設運営・活用によるアクションプランの実施
- ・ 周辺地域との連動による効果増大化

Contents

1.

計画策定の背景

- ・土岐市の地域課題の洗い出し
- ・泉北部レクリエーションゾーンの利活用の検討

2.

事業の方針の検討 ※資料編あり

- ・関係団体へのヒアリング
- ・市民ワークショップ

3.

泉北部レクリエーションゾーンの活用

- ・具体的なソフト事業の検討
- ・モニタリングキャンプ
- ・5つの柱に基づく事業の検討

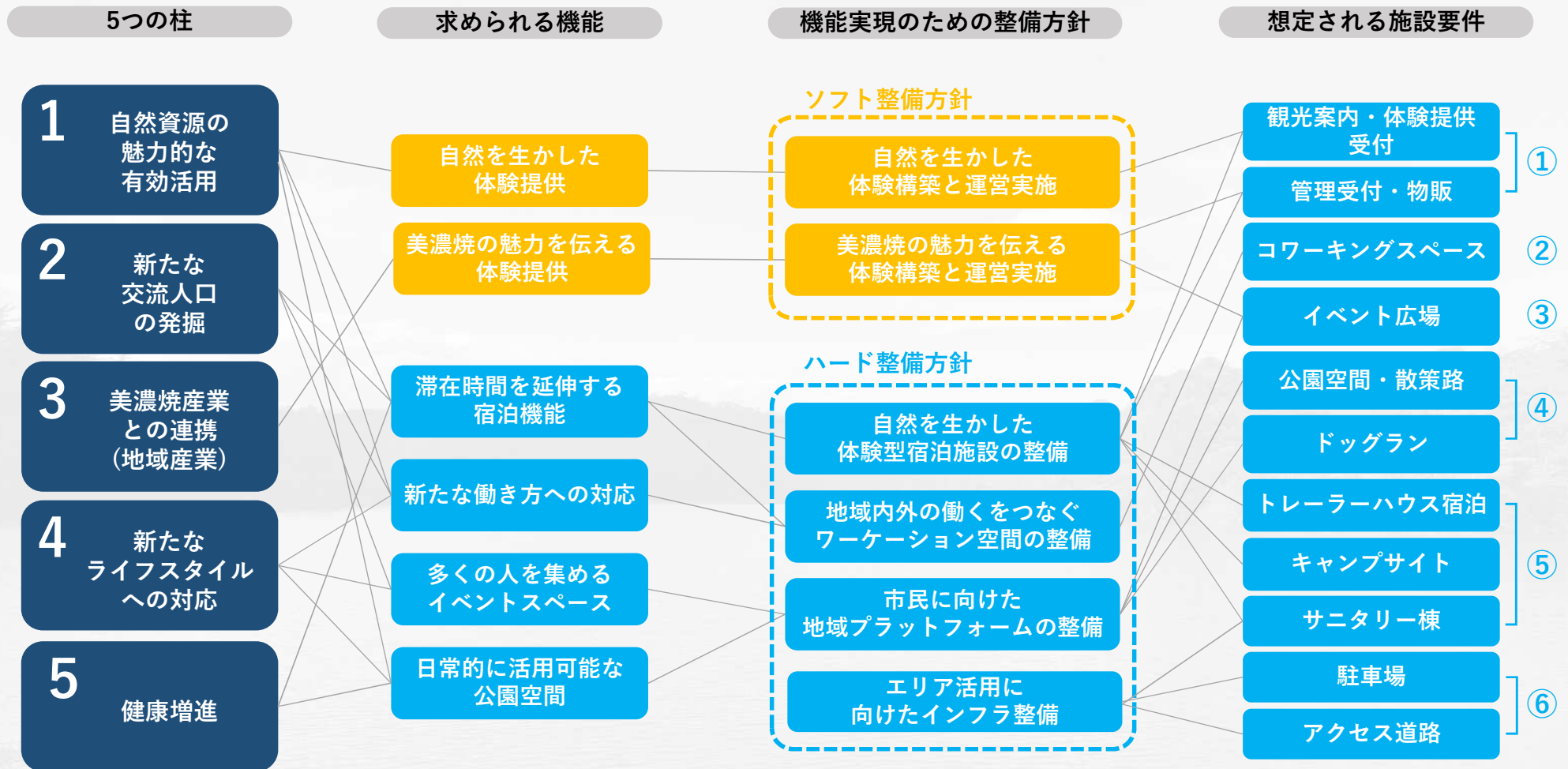
4.

泉北部レクリエーションゾーンの整備

- ・機能の整理
- ・エリアの整理・レイアウト案
- ・開業に係るスケジュールやスキーム

5つの柱から施設に求められる機能を整理

ソフト・ハード両面から整備を行い、 土岐に暮らす人々・土岐を訪れる人々のプラットフォームを整備



6つの機能の整備方針

機能	イメージ	目的	整備方針
1. 観光案内・体験提供・物販		・ 周辺観光の促進 ・ 美濃焼体験の提供 ・ 施設集客の安定化	・ 訪れた人、地域の方を迎え入れるエントランス空間 → 施設・体験の案内、観光や美濃焼に関する情報発信 → 集客につながる物販や体験サービスの提供
2. コワーキングスペース		・ 新たな働き方への対応 ・ 団体利用可能なスペース確保 ・ 利用者への滞在空間の提供	・ リラックスしながらの滞在を促すワークスペース → 緑化率を高め、アウトドア要素も加えた空間デザイン ・ フレキシブルに利用可能なレイアウトと什器選定
3. イベント広場		・ 地域行事利用による交流促進 ・ イベント実施からの集客化	・ 多目的に活用できる開放的な屋外空間の確保 → 自然体験や美濃焼体験での活用 → マルシェなどの交流促進イベント実施
4. 公園空間・散策路		・ 周辺の自然環境を保全 ・ 散策活動等の運動促進 ・ 新たな需要への対応	・ 自然環境を生かし、回遊が可能な空間をデザイン → 自然体験活動と連動した環境保全とエリアの整備 ・ ドッグラン等、需要のある利用方法への対応
5. キャンプ場・宿泊施設		・ 宿泊滞在への対応 ・ 自然資源を生かした集客促進 ・ 自然体験・学習の促進	・ 既存開拓エリアを活用したキャンプサイト計画 ・ 幅広い層の利用へ対応する機能整備 → サニタリー棟・安心感のあるトレーラーハウス客室整備
6. アクセス道路・インフラ・駐車場		・ エリア活用の基盤整備 ・ 利用者数増加への対応	・ 想定利用者数に対応した安心感のあるエリアデザイン → 通行可能な道路幅確保、駐車場数の確保 ・ 既存設備の確認、必要インフラの整備

1 観光案内・体験提供・物販

訪れた人、地域の方を迎え入れるエントランス空間



レクリエーションゾーンのエントランス空間として、施設のインフォメーション・体験案内・物販など、利用者を迎え入れる空間を用意。

さらには集客につながる機能を備え、施設利用とともに周辺観光の促進を狙う。

2 コワーキングスペース

リラックスした滞在を促す地域のワークスペース



市外から訪れた方も利用可能な、地域住民のワークスペースを用意し、滞在空間を確保。

景観を生かした設計・緑化・アウトドア備品の導入・Wi-Fi機能完備など、リラックスしながらも本格的に作業もできる空間を計画する。

3 イベント広場

多目的に活用できる開放的な屋外空間の確保



地域行事やイベントを想定して、大人数の利用が可能な屋外空間を整備。

週末マルシェなどのイベントによる集客や健康増進につながる体験の提供、美濃焼への理解を深めるなど、多目的な活用を想定して計画する。

4 公園空間・散策路

元の自然環境を生かし、回遊可能な空間をデザイン



人が入ることが減り荒れてしまった現状を、多くの人が散策したくなるような環境に再整備。

自生する植生を保全しながら、安全でより回遊することが気持ち良い散策路・休憩場所を用意し、地域住民にとっての憩いの場を生み出す。

5 キャンプ場・宿泊施設

既存の平場を活用した宿泊滞在空間の整備



宿泊滞在を生み出すため、キャンプサイトや宿泊施設を整備。

既存の平場や景観を生かし、サニタリー棟なども整備することで、より快適な滞在空間を提供していく。

6 アクセス道路・インフラ・駐車場

利用者に安心感のある基盤整備



レクリエーションゾーンの今後の活用を想定した基盤の整備。

安心して利用できるアクセス路・駐車場の確保、必要な部分のインフラを再整備する。造成は安全を確保しつつ、魅力的な自然景観を生み出す。

Contents

1.

計画策定の背景

- ・土岐市の地域課題の洗い出し
- ・泉北部レクリエーションゾーンの利活用の検討

2.

事業の方針の検討 ※資料編あり

- ・関係団体へのヒアリング
- ・市民ワークショップ

3.

泉北部レクリエーションゾーンの活用

- ・具体的なソフト事業の検討
- ・モニタリングキャンプ
- ・5つの柱に基づく事業の検討

4.

泉北部レクリエーションゾーンの整備

- ・機能の整理
- ・エリアの整理・レイアウト案
- ・開業に係るスケジュールやスキーム

フェーズ分けによる整備エリアの整理

保安林解除の必要エリアについては第二フェーズにて活用を検討

プロポーザル対象エリア



フェーズごとの対象範囲



第2フェーズ対象エリアについては、今後保安林指定解除などにより第1フェーズ開業時期以降の整備に向けて検討を継続

整備レイアウト検討図



整備レイアウト検討図



イメージ図 | 施設全体の俯瞰



イメージ図 | オートキャンプサイト



イメージ図 | オートキャンプサイト



イメージ図 | トレーラーハウスサイト



イメージ図 | センター棟



Contents

1.

計画策定の背景

- ・土岐市の地域課題の洗い出し
- ・泉北部レクリエーションゾーンの利活用の検討

2.

事業の方針の検討 ※資料編あり

- ・関係団体へのヒアリング
- ・市民ワークショップ

3.

泉北部レクリエーションゾーンの活用

- ・具体的なソフト事業の検討
- ・モニタリングキャンプ
- ・5つの柱に基づく事業の検討

4.

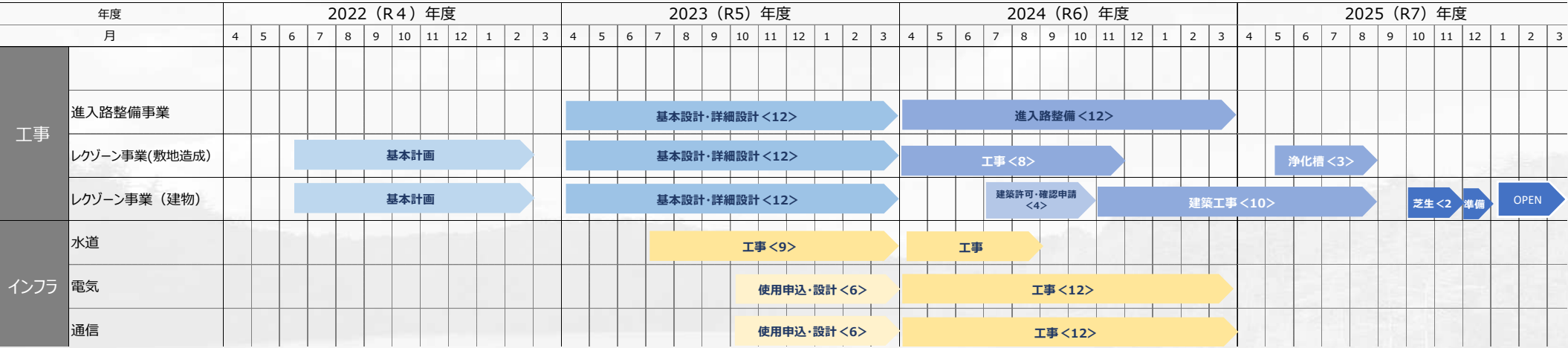
泉北部レクリエーションゾーンの整備

- ・機能の整理
- ・エリアの整理・レイアウト案
- ・開業に係るスケジュールやスキーム

開業に係るスケジュールやスキーム

令和7年度中のオープンを目指して以下のスケジュールを想定

泉北部レクリエーションゾーン 事業スケジュール（案）



整備手法の検討

公設のみならず、PFI等の民間ノウハウを活用する方式についても検討していく。

(1) 整備手法の整理

①公設方式

市の資金によって設計・建設を行う従来からの方式。施設の配置・建築材料等、業務に関わる詳細な要件等の仕様書を公共が作成し、民間に提示して発注する。

②民活方式（PFI）

PFI（Private Finance initiative）とは、公共施設等の設計、建設、改修、維持管理、運営またはこれらに関する企画に、民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用する方法。

PFIの方式は、以下のように分類される。なお、公園に施設を設置して運営する民間事業者を公募するPark-PFIの方式もある。

区分	事業方式	概要
新築型	BTO（Build Transfer Operate）	民間が施設を建設（Build）し、完成直後に公共へ所有権を移転（Transfer）し、民間が使用权を得て管理運営（Operate）を行う。
	BOT（Build Operate Transfer）	民間が施設を建設（Build）し、一定の期間管理運営（Operate）を行って資金回収を行い、期間終了後に公共へ所有権を移転（Transfer）する。
	BOO(Build Operate Own)	民間が施設を建設（Build）し、管理運営（Operate）を行い、所有権の移転は行わない。
改修型	RO（Rehabilitate Operate）	民間が資金を調達して既存の施設を改修（Rehabilitate）し、管理運営（Operate）を行う。所有権の移転はなく、公共が所有者である。

整備手法の検討

③民活方式（DBO、DB）

PFIのほかに、DBO方式やDB方式がある。
DBO方式では、設計・施工・管理運営が一括契約を行い、DB方式では、設計・施工が一括契約を行った上で、管理運営は委託となる。

④民活方式（リース）

民間の資金によって施設の設計・施工・管理運営を行い、施設を所有する方式。市は当該事業者と賃貸契約を結び、リース料を支払う。

DBO方式

【設計・施工・管理運営一括契約】

公共の資金によって民間が設計・施工・管理運営を行う。施設は公共が所有する。

DB方式

【設計・施工一括契約】 + 【管理運営委託】

公共の資金によって民間が設計・施工・管理運営を行う。管理運営を別事業として契約する。施設は公共が所有する。

(2) 整備手法の財政負担の比較

項 目	公設方式	民 活 方 式			
		PFI	DBO	DB	リース
資金調達	公共	民間	公共	公共	民間
支出の平準化	初期段階の負担が大きい。	分割払いによって初期段階の負担を軽減。	初期段階の負担が大きい。	一括払いの場合は負担が大きい。	分割払いによって初期段階の負担を軽減。
コスト削減	あまり期待できない。	期待できる。	期待できる。	ある程度期待できる	期待できる。

整備手法の検討

(3) 手続きの比較

公設方式では、施設整備・管理運営など、その都度発注や契約が必要となるが、施設整備までに要する期間は、民活方式と比べて短くなる。

民活方式では、例えばPFIで考察すると施設整備の前に導入可能性調査、実施方針の策定・公表、事業者選定・契約が必要となるため、事業期間が長期となることが、予想される。

(4) 当該事業の手法について

これまでのことを参酌し、当該事業の手法について最適解を探っていく。

泉北部レクリエーションゾーン活用事業の実現に向けて

当基本計画を策定するにあたり、基礎指標のみならずヒアリングや市民ワークショップ、モニタリングキャンプなどを通じ、多くの市民と地域の課題に対して、当レクリエーションゾーンをどのように活用できるのかを具体的に議論した。

浮き彫りになった地域課題は、すべて解決できるとは限らないものの、当基本計画が当市の「まちづくりの羅針盤」として、その役割を果たすものと大きく期待している。

いずれにしても、まちづくりの実現には、主役となる市民と行政が一緒になって取り組むことが必要である。今回の各論点や課題にしっかりと向き合い、必要な施策や事業を推進していくことを約束して、当基本計画の結びとする。

